

1 移動支援、買い物支援

タクシーやバス、電車以外で、膝の悪い方が外出する手段がない
坂道が多くバス停まで遠いので、移動手段がない。(最寄りの交通機関までの移動できない)
買い物等外出支援がない（交通の便が悪い）

⇒ **民間事業者、サービス事業所による地域貢献による移動手段の確保**
民間事業者による移動販売の働きかけ

2 「我が事」ではなく、「他人事」

地区の役員やゴミ当番等輪番制に無理がある。住民の中には、参加出来ない事への理解が得られない場合がある。（“社会的弱者”に対して住民の理解が得られない）
近所付き合いもなく、周りから生活実態が見えにくい。ひとりで生活している人に何が起きているか関心を持たないことで、自分の住むエリアにどんな影響やリスクが及ぶかを考えようとする人が多い。

⇒ **“社会的弱者”が何に困っているのかを知り、学ぶ機会を設ける。**
（住民の“気づき”の後、ちよいボラ活動に発展）

3 認知症への理解と認知症対策

認知症の理解が乏しい（本人を叱責する人がいる）
認知症見守りステッカーの周知がされていない。一人で外出することが出来るが認知症のため自ら助けを呼ぶ判断ができない。
認知症の方が何を一番望んでいるのかに、周りの方の関心が向かない。
認知症により、正しくゴミ出しができない。(認知症の人に対して何らかの支援が必要)

⇒ **地域住民や企業向けのサポーター養成講座等を通じて、認知症への理解を広める**
認知症ステッカー及び認知症見守りネットワークの普及啓発
認知症ケアパスの活用(普及啓発)
認知症初期集中支援チームによる支援(地域包括支援センター等と連携した体制づくり)

4 担い手不足や地域住民の希薄化

知ってはいるが付き合いはないという人もいる。住民がお互いに関心を寄せ合うことが、何よりも自分が安心して暮らせる地域となるということに、まだまだ気づきがない。
一人暮らしの不安から、様々な言動によって周囲を振り回す。民生委員がその対応に苦慮する
民生委員、区長だけでは地域の見守りが難しく限界がある。

⇒ **サロン(担い手及び参加者)を中心とした見守り体制の充実を図る**
様々な活動をしている方々のつながりを構築(ネットワーク化)

5 住民の交流、居場所が不十分

住民が集える場がない
地域の中に定期的（1回/月）な集まりの場はあるが、頻繁（毎日）に誰でも気軽に行く場所がない。

⇒ **地域の居場所の設置(集いの場の受入れ間口の拡大)**
*** サロンの付加価値を高める取り組みの推進**

6 相談体制の充実

一人暮らし世帯に対し緊急時の対応に不安がある
家族として、いつまで自宅で生活でき、どうなると施設に行った方が良いのか、判断基準が分からない。
地縁のつながりがあり、家の事情も知っている。本人の暮らしぶりから、ゆくゆくは周囲に迷惑を与える存在とわかっていても、どう関わっていけばいいのかわからない。

⇒ **気軽に相談できる場での相談会を開催(アウトリーチ型相談の充実)**

7 外国籍市民への対応策の構築

キーパーソンが外国人の配偶者であり、言語の問題から手続きや制度の理解が出来ない。

⇒ コミュニケーション不足により制度に、うまくつながらない方の対策
(相談窓口、通訳、外国語版啓発資料の作成など)

8 身元保証が必要な人への対応

身寄りのない方が、入院時に身元保証人、身元引受人を求められる。

⇒ 身元保証がない方の入院・入所などをはじめ、一定の取り決めが必要である。

9 支援が必要な人の把握

支援の必要な人の把握が難しい

孤立している自覚のない人や、孤立している人の情報を共有する場がない。

家族や地域とのつながりが薄れて孤立したまま状況が悪化してもSOSを発信できない人や、発信する能力が低下している人がいるという気づきがまだまだ足りない。

⇒ 「フレイルチェックリスト」を活用し、自身の身体機能等の低下を自覚してもらい、自発的な相談につなげる。

10 社会資源等の周知

サロンの情報が住民に伝わっていない

様々な制度や支援策、どこに何があるのか（集いの場などの社会資源）把握出来ない。

社会参加の場（サロンや趣味活動などでのつながり）を活用したいが、既存のサロンや趣味活動の場に途中からだ入りづらい空気があるし、そこで何をしているのかわからない人が多い。

⇒ 広報等での周知。ケアマネジャーなどには、勉強会等の集まる機会に地域資源の周知を図る必要がある。

11 既存制度、サービスの充実化

地域の見守り活動や体制を整え、住み慣れた地域で暮らし続ける

連絡手段となる固定電話や携帯電話がない世帯に対する安否確認や緊急連絡方法

⇒ 緊急通報装置：受益者負担の考えのもと、対象者の要件緩和
配食サービス：安否確認より、栄養改善に重点を置いた食事の提供
遠方家族を支える体制づくり：ITの活用
緊急キッドの導入・・・安心カプセルの普及